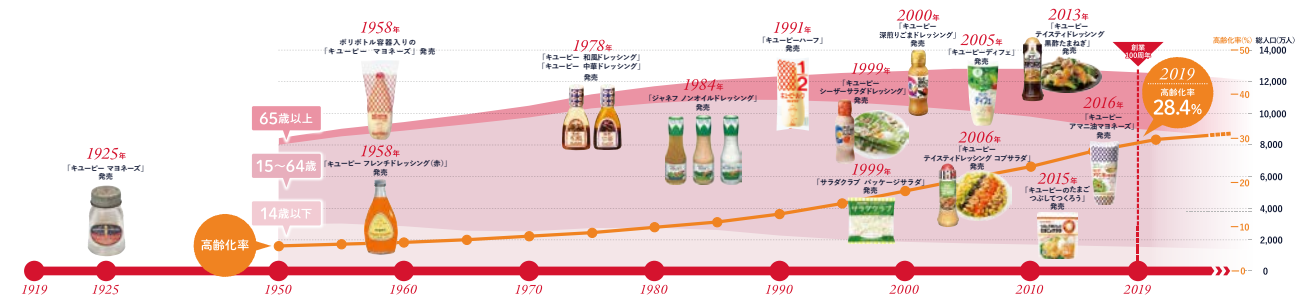


健康寿命延伸への貢献

創始者の中島董一郎は、栄養価の高いマヨネーズを普及させて、日本人の体格向上に貢献したいという想いで「キューピーマヨネーズ」を1925年に発売。以降、食生活などのライフスタイルの多様化や少子高齢化などの社会環境の変化に合わせて、お客様の食と健康を考えた商品を世に送り出してきました。



サステナビリティ目標

- サラダとタマゴのリーディングカンパニーとして
 - 1日当たりの野菜摂取量の目標値350gの達成に貢献
 - たんぱく質の摂取に貢献するため、卵の消費量アップを推進



食と健康への貢献

主な取り組み

- **生涯健康のための3つの柱**
健康寿命の延伸を目的として、栄養、運動、社会参加の3つの柱を連動させながら推進するために、大学や自治体、企業と協働を進めています。
- ▶ Topics
- **サラダとタマゴでおいしくバランスの良い食生活をサポート**
栄養面ではバランスの良い食生活が大切です。当社の強みである卵はフレイル予防に効果的であり、サラダは食物繊維やビタミンなど生活習慣病予防に効果的です。さらに、サラダをしっかり和らぐ食習慣を心掛けていただくことが、健康増進にもつながります。今後これらの提案を、商品やサービスに展開していきます。

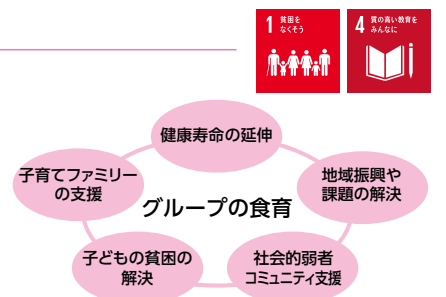
P.8 価値創造ストーリー①「サラダとタマゴで健康長寿を応援」

キューピーグループは
サラダとタマゴで
一人ひとりの健康を応援します



子どもの心と体の健康支援

健やかな食生活の実現をめざして、食の大切さ、楽しさをお伝えする食育活動に取り組んでいます。一方で、子どもの知識や体験の不足、子育て中の親の孤立や子どもの貧困などの社会課題も生じています。各世代に寄り添う食育活動を通じて、子どもの健やかな食生活の実現に取り組み、未来の活躍を支援していきます。



サステナビリティ目標

指標	2019年度実績	2021年度目標	2030年度目標
グループの食育活動などで接する子どもの笑顔の数 (2019年度から累計)	10.1万人	20万人以上	100万人以上

主な取り組み

- **各世代に寄り添う食育活動**
オープンキッチン(工場見学)
社会科見学の一環として1961年に開始した工場見学の年間来場者は約7万人です。全国5工場でものづくりへの想いと野菜摂取の大切さを発信しています。

マヨテラス(見学施設)
あらゆる年代の方々に食の大切さ、楽しさを提供する見学施設です。

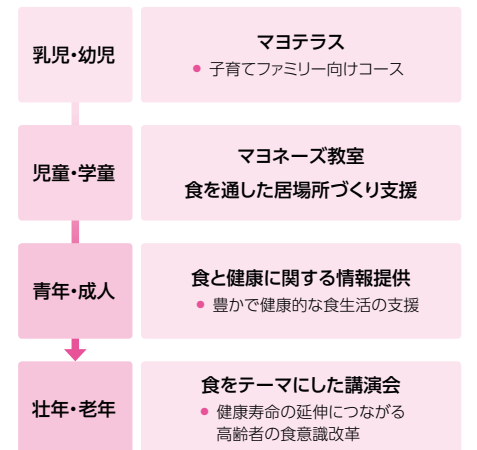
▶ Topics

マヨネーズ教室(出前授業)
マヨネーズの手作り体験や座学を通じて、野菜摂取の大切さや食の楽しさを伝えています。従業員が講師として2019年度は315校の小学校で開催し、2002年からの累計参加人数は10万人に到達しました。

食をテーマにした講演会
食生活と健康に関する情報提供を目的として実施しています。

- **公益財団法人キューピーみらいたまご財団**
2017年に設立し、食育活動や子ども食堂などの食を通じた居場所づくり支援を行う団体に助成活動を行っています。2020年度から健康寿命延伸のための食育活動を実施する団体を助成するプログラムを設けました。

世代ごとの食育で健康なくらしの実現



助成先の子ども食堂でのイベントの様子

Topics

運動と食の両面から健康を応援 食と健康推進プロジェクト

生涯健康のためには栄養、運動、社会参加の3つの連携が大切とする考えを共有するセントラルスポーツ株式会社と協働を進めています。手軽に効果的にたんぱく質を摂取したいというスポーツジム利用者やインストラクターからの要望を受けて、食の勉強会を開催したり、利用者へレシピや健康情報の提供を行っています。



提供レシピ例

Voices

食と健康

キューピー株式会社経営推進本部
食と健康推進プロジェクト
仁田 友香



サラダと卵の組み合わせを意識した食生活をおすすめしています。当社が提供する「栄養」とセントラルスポーツ株式会社の提供する「運動」との組み合わせに、新たな可能性を実感しています。

Topics

子育てファミリーを支援 マヨテラス(仙川キューポート)

「キューピーベビーフードを活用してみよう!」をマヨテラスで開催しています。離乳食やベビーフードに関する知識を得て、活用していただくことで、子どもとの楽しいコミュニケーションの時間を増やしていただきたいと願っています。



子育てファミリー向けコースでの親子の様子

Voices

食育

キューピー株式会社
研究開発本部
渡辺 貴之



離乳期の子どもを持つご家族は、食に関する様々な不安をお持ちです。プログラムに参加し、親も子どもも笑顔になっていただけるように心掛けています。

資源の有効活用と持続可能な調達

食品メーカーとしてお客様に安心いただくためには、商品のおいしさや安全性に加えて、原料・資材の調達から生産・販売、廃棄物のリサイクルまで、サプライチェーン全体に対して責任ある取り組みが必要と考えています。

サステナビリティ目標

指標	2019年度実績	2021年度目標	2030年度目標
グループで利用する主な野菜(キャベツなど)の未利用部	21.2%を有効活用	30%以上を有効活用	90%以上を有効活用
商品廃棄量(2015年度比)	△29.9%	△25%以上	△50%以上

主な取り組み

● 資源の有効活用

野菜未利用部の活用

サラダ・惣菜事業の拡大に対応して、商品には使用できない野菜の未利用部(外葉や芯、皮など)の有効活用に取り組み、さらなる高度利用をめざしています。

卵殻の有効活用

1956年より土壌改良剤に活用したことに始まり、水田への卵殻施肥による天候不順時の収量安定、米の品位向上が報告されています。

※ 令和元年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰「農林水産大臣賞」を受賞(写真上)

商品廃棄の削減

賞味期限の延長、年月表示など、生産・販売・物流で連携した食品ロス削減に取り組んでいます。食品ロス削減の必要性がサプライチェーンで共有され、商品廃棄削減の取り組みが加速しています。

● 持続可能な調達

「キューピーグループの持続可能な調達のための基本方針」を2018年に策定し、環境や人権に配慮した調達を推進しています。パーム油では、RSPO※へ2018年に加盟し持続可能なパーム油の調達に取り組んでいます。

※ RSPO: 持続可能なパーム油のための円卓会議



表彰式の様子



水田に卵殻を施肥する様子(埼玉県の協力農家)

CO₂排出削減(気候変動への対応)

気候変動に関するパリ協定は2015年に採択され、脱炭素社会の実現に向けて、企業はより責任ある行動が求められるようになりました。当社グループでは、サステナビリティ目標「CO₂排出量2030年度20%削減(2013年度比)」の達成への取り組みを行っています。

サステナビリティ目標

指標	2019年度実績	2021年度目標	2030年度目標
CO ₂ 排出量(2013年度比)	△7.2%	△7.5%以上	△20%以上

主な取り組み

● CO₂排出削減

CO₂排出削減のため、グループ全体で製造工程における効率改善、省エネ設備の導入などの展開に加えて、太陽光発電設備の新設による再生可能エネルギーの活用を進めています。

物流では長距離トラック輸送から鉄道・船舶輸送へのモーダルシフト、異業種メーカーとの共同輸送を積極的に推進しています。

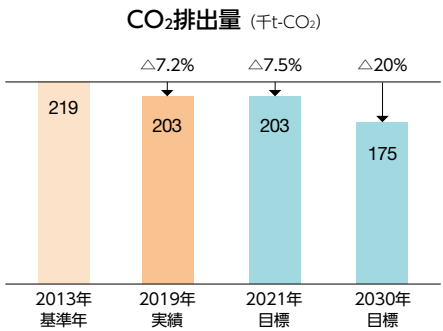
オフィスではエネルギー使用の最適化に取り組んでいます。グループの本社が集まる仙川キューポートではAIの活用により、空調機器の年間エネルギー使用量を約15%削減しました。

また、サプライチェーン全体でのCO₂排出量の算定を進め、その削減を推進します。

● 気候変動リスクへの対応

リスクマネジメント委員会において「気候変動リスク」を2020年度から対応すべき環境リスクに選定し、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)勧告に基づくシナリオ分析に着手しています。当社グループの気候変動リスクを特定して、リスク軽減と事業機会の創出につなげます。

また、脱炭素社会の実現に向けては、同委員会で2019年度「プラスチック問題」への対応方針を検討し、その方針の1つとして、石油由来プラスチックの使用削減に取り組んでいます。具体的な取り組みとして、ドレッシングの外装に再生プラスチックを採用しました。



※対象: 国内グループ生産事業所およびオフィス、当社販賣商品の輸配送



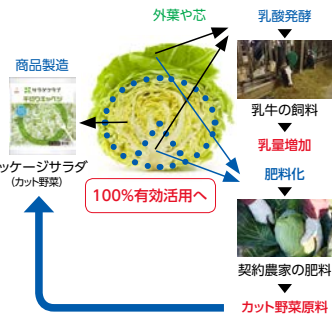
再生プラスチックを外装中に約15%使用した「キューピー ドレッシング スティックタイプ」(キューピーアヲハタニュース 2020年 No.32参照)

Topics

野菜の未利用部の100%有効活用の達成

株式会社サラダクラブ遠州工場

パッケージサラダの主要原料であるキャベツ・レタスの外葉や芯などの未利用部の有効活用のために、当社グループで開発した乳酸発酵による乳牛向けの飼料化技術を導入しました。さらに、2019年に発酵分解装置による工場内での肥料化技術を導入して、すべての未利用部の有効活用を実現しました。



Voices

資源循環

株式会社サラダクラブ
遠州工場長

山本 研二郎



野菜の未利用部を活用した良い肥料を作り、工場周辺の契約農家へ提供します。そして、その契約農家から原料として野菜を購入するという循環型農業を進め、地域とのつながりを大切にしていきます。

Topics

再生可能エネルギーの導入

株式会社旬菜デリ昭島事業所・KEWPIE (THAILAND) CO.,LTD.

2020年4月、国内ではキューピー株式会社五霞工場に続く2カ所目の自家消費型の太陽光発電設備が株式会社旬菜デリ昭島事業所で稼働しました。海外でもタイの生産事業所で太陽光発電設備を増設し、再生可能エネルギーの発電量を約2MWとしました。今後も当社グループでは再生可能エネルギーへの転換を進めます。



タイの生産事業所に設置した水上太陽光発電施設

Voices

CO₂排出削減

KEWPIE (THAILAND) CO.,LTD.

野崎 俊介



太陽光発電によるエネルギーの地産地消は、化石燃料での発送電より効率的です。CO₂排出削減を進めて地球温暖化防止に貢献できると考え、従業員一同積極的に取り組んでいます。